

(8) 中国



中国地域では、景気は持ち直しの動きが続いている。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費はやや弱含んでいる。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが続いている。

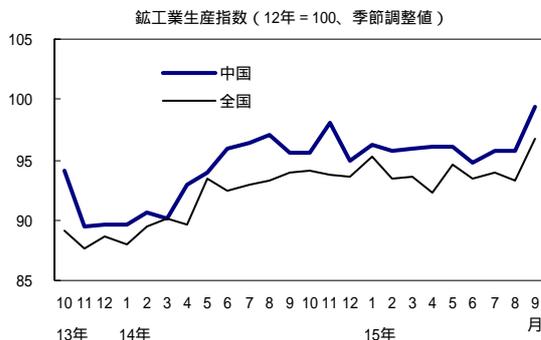
前回調査からの主要変更点

	前回（平成 15 年 8 月）	今回（平成 15 年 11 月）	
景況判断	緩やかな持ち直しの動きが続いている	持ち直しの動きが続いている	
鉱工業生産	緩やかに減少	おおむね横ばい	
住宅建設	おおむね横ばい	減少	
雇用情勢	持ち直しの動きが緩やかになっており、依然として厳しい	依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが続いている	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。

化学は、アジア向け輸出を中心に堅調な生産が続いており、横ばいとなっている。鉄鋼は、国内の自動車向けは堅調に推移しているが、アジア向け輸出が現地在庫の調整を行っていることなどから、減少している。輸送機械は、自動車が新型車投入効果等から国内販売が持ち直している上に輸出も堅調であり、増加傾向にある。一般機械は、アジア向け輸出が持ち直しており、自動車向けも堅調に推移していることから、持ち直しの動きがみられる。電子部品・デバイスは、カメラ付き携帯電話や液晶関連製品向けが好調であり、増加傾向にある。



（備考）平成 15 年 9 月の中国は速報値。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期比増減率) (%)

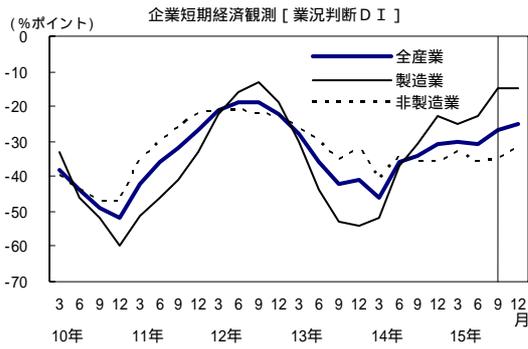
	付加価値 ウェイト	生産		出荷		在庫	
		4～6 月期	7～9 月期	7～9 月期	7～9 月期		
化学	17.6	4.1	0.0	1.8	2.2		
鉄鋼	12.1	0.8	3.5	3.0	4.8		
輸送機械	12.0	2.8	10.1	7.3	34.9		
一般機械	10.4	8.7	1.4	6.5	2.2		
電子部品・デバイス	7.6	5.0	11.4	10.8	-		
鉱工業	100.0	0.4	1.5	0.9	3.7		

（備考）1. 地域における付加価値ウェイトの高い 15 業種。

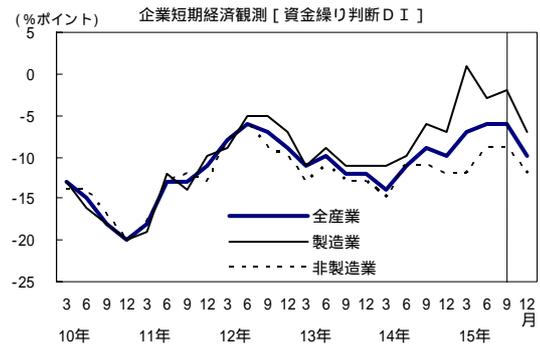
2. 7～9 月期は速報値。

3. 電子部品・デバイスの在庫指数は公表されていない。

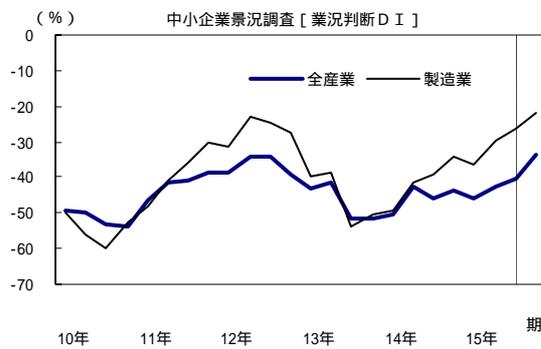
(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「苦しい」超幅が横ばいとなっている。
企業短期経済観測調査 [業況判断DI、資金繰り判断DI] 及び中小企業景況調査 [業況判断DI]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。15年12月は予測



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。15年12月は予測



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。15年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査 (10月調査) [企業動向関連 (現状判断)]

「仕入れ商品の売上があまり伸びず苦戦をしているが、海外向けの自社製品の販売が増加傾向にある(一般機械器具製造業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 設備投資の15年度計画は前年度実績を上回っている。

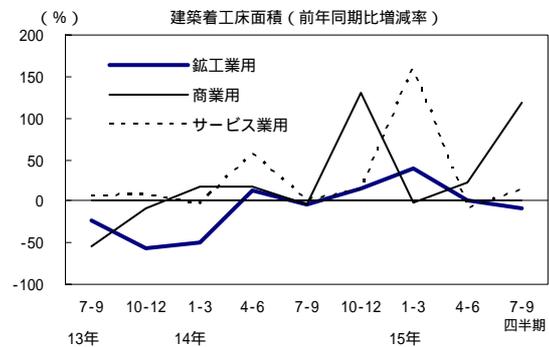
企業短期経済観測調査 [設備投資 (9月調査)]

(前年度比増減率、単位：%)

	14年度実績	15年度画
全産業	9.7	3.5 (0.8)
製造業	10.2	10.1 (1.5)
非製造業	9.1	3.4 (0.1)

(備考) ソフトウェアを含む設備投資。

() は前回 (6月) 調査比修正率。



(8) 中国

2. 需要の動向

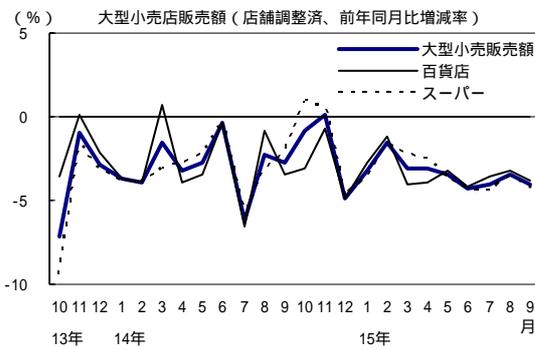
(1) 個人消費はやや弱含んでいる。

大型小売店販売額及び乗用車新規登録・届出台数

百貨店は、7月が冷夏の影響で飲食料品が不振となり、8月も衣料品、飲食料品といった主力商品が振るわず、家庭用品の落ち込みにも歯止めがかからなかった。9月は飲食料品の減少幅が小さくなったものの、天候不順によって衣料品が大きく落ち込んでおり、引き続き前年を下回って推移している。スーパーでは、7、8月と冷夏の影響で衣料品や飲食料品が不振であり、冷夏への対応で秋物を強化した9月上旬は、一転して真夏日となった日が多かったため、衣料品の不振が続き、引き続き前年を下回って推移している。

景気ウォッチャー調査(10月調査)[家計動向関連D I (現状判断)]

「ヤング層では早くからコートが動くなど順調な推移をみせている。反面、ミセス層では単品での購入が増え、単価が下がる傾向にある(百貨店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

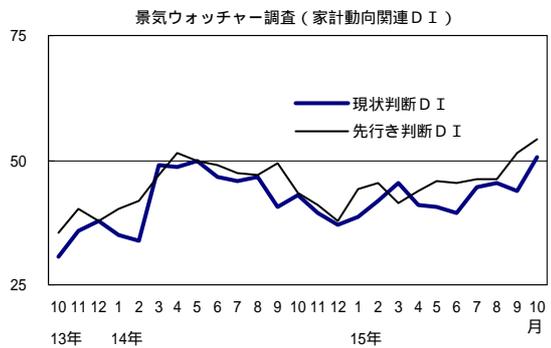
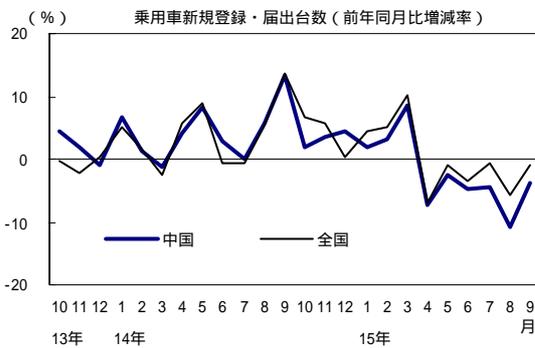


(前年同期比増減率、単位：%)

	14年10-12月	15年1-3月	4-6月	7-9月
大型小売店	2.2	2.7	3.6	3.9
百貨店	3.1	2.8	3.8	3.5
スーパー	1.5	2.6	3.5	4.1
乗用車	3.3	5.5	4.8	5.9
景気ウォッチャー	39.8	42.0	40.3	44.6

(備考) 1. 大型小売店販売額は店舗調整済。

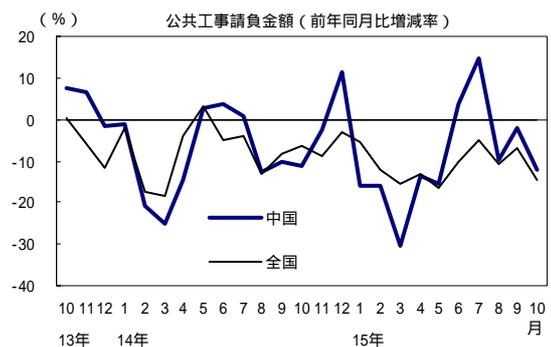
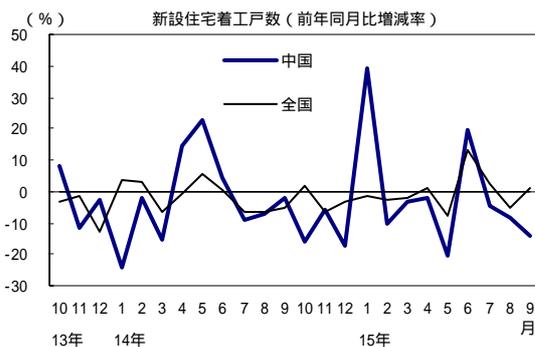
2. 景気ウォッチャー調査の数値は家計動向関連の現状判断D Iの3か月単純平均。



(2) 住宅建設は減少している。

持家が前年を上回ったものの、貸家が下回ったことから、全体では減少している。

(3) 公共投資は年度累計で見ると前年とほぼ同水準になっている。

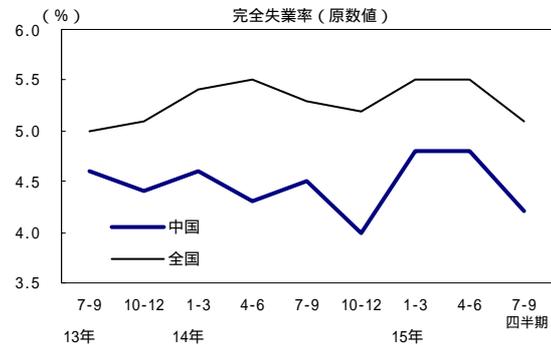
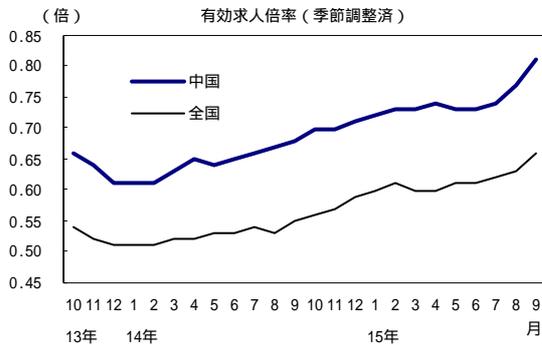


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが続いている。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率はこのところ上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査(10月調査)[雇用関連(現状判断)]

「合理化や人員削減など対症的な動きが一段落しているだけで、戦略的な人材確保のための求人はわずかしかなかく、雇用全体が回復傾向とみるのは早計である(人材派遣会社)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数は下落幅がおおむね横ばいとなっている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	14年10-12月	15年1-3月	4-6月	7-9月	15年10月
倒産件数	254	234	217	166	59
(前年比)	10.0	0.4	1.4	33.1	42.2
負債総額	791	1,545	844	552	169
(前年比)	43.2	58.4	75.8	35.0	37.3



景気ウォッチャー調査(10月調査)[合計D I(特徴的な判断理由)]

<現状>

・婦人靴の中でもロングブーツが前年の130%、婦人靴全体でも114%と大きく伸びており、店全体でも13か月ぶりに売上目標達成の状況である(百貨店)

<先行き>

・現在のところポリプロピレン等は受注、販売ともに好調であるが、今後、円高がどのように影響するか不透明である(化学工業)

